資料 1－3

平成 26 年度SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の実施方針

平 成 26 年 5 月 23 日
総合科学技術・イノベーション会議

「科学技術イノベーション創造推進費に関する基本方針」（平成 26 年 5 月 23 日 総合科学技術・イノベーション会議）に基づき、平成 26 年度戦略的イノベーション創造プログラムの実施方針を定める。

平成 26 年度に研究開発に着手する対象課題、プログラムディレクター、研究開発計画の基本的事項及び対象課題ごとの配分額は以下の通りとする。

なお、年度途中に機動的に対応すべき事項が生じた場合等に対応するため、及び以下の10課題以外の内閣府自らが使用する分として、15 億円を配分せずに留保することとする。

対象課題	プログラムディレクター	研究開発計画の基本的事項	配分額（億円）
革新的燃焼技術	杉山雅則 トヨタ自動車 エンジン技術領域 領域長	若手エンジン研究者が激減する中、研究を再興し、最大熱効率 50%の革新的燃焼技術（現在は 40%程度）を実現し、省エネ、CO_2削減に寄与。日本の自動車産業の競争力を維持・強化。	20
次世代パワーエレクトロニクス	大森達夫 三菱電機 開発本部 役員技監	現状比で損失 1/2、体積 1/4 の画期的なパワーエレクトロニクスを実現し、省エネ、再生可能エネルギーの導入拡大に寄与。併せて、大規模市場を創出、世界シェアを拡大。	22
革新的構造材料	岸 輝雄 東京大学名誉教授、物質・材料研究機構顧問	軽量で耐熱・耐環境性等に優れた画期的な材料の開発及び航空機等への実機適用を加速し、省エネ、CO_2削減に寄与。併せて、日本の部素材産業の競争力を維持・強化。	35
エネルギーキャリア	村木 茂 東京ガス 取締役副会長	再生可能エネルギー等を起源とする電気・水素等により、クリーンかつ経済的でセキュリティーレベルも高い社会を構築し、世界に向けて発信。	29
次世代海洋資源調査技術	浦辺徹郎 東京大学名誉教授、国際資源開発研修センター 顧問	銅、亜鉛、レアメタル等を含む、海底熱水鉱床、コバルトリッチクラスト等の海洋資源を高効率に調査する技術を世界に先駆けて確立し、海洋資源調査産業を創出。	60
自動走行システム	渡邉浩之 トヨタ自動車 顧問	自動走行（自動運転）も含む新たな交通システムを実現。事故や渋滞を抜本的に削減、移動の利便性を飛躍的に向上。	24.5
インフラ維持管理・更新・マネジメント技術	藤野陽三 横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター 特任教授	インフラ高齢化による重大事故リスクの顕在化・維持費用の不足が懸念される中、予防保全による維持管理水準の向上を低コストで実現。併せて、継続的な維持管理市場を創造するとともに、海外展開を推進。	34.5
レジリエントな防災・減災機能の強化	中島正愛 京都大学防災研究所 教授	大地震・津波、豪雨・竜巻等の自然災害に備え、官民挙げて災害情報をリアルタイムで共有する仕組みを構築、予防力の向上と対応力の強化を実現。	24.5
次世代農林水産業創造技術	西尾 健 法政大学生命科学部 教授	農政改革と一体的に、革新的生産システム、新たな育種・植物保護、新機能開拓を実現し、新規就農者、農業・農村の所得の増大に寄与。併せて、生活の質の向上、関連産業の拡大、世界的食料問題に貢献。	35
革新的設計生産技術	佐々木直哉 日立製作所日立研究所 主管研究長	地域の企業や個人のアイデアやノウハウを活かし、時間的・地理的制約を打破する新たなものづくりスタイルを確立。企業・個人ユーザニーズに迅速に応える高付加価値な製品設計・製造を可能とし、産業・地域の競争力を強化。	25.5

※配分留保額及び上記 10 課題への配分以外の内閣府執行分の合計は、15 億円である。

（注）健康医療分野に関しては、健康・医療戦略推進本部の下で推進する。